

平成20年度 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会

報 告 書

平成20年12月16日

◆ 目次

報告書の作成にあたって	1
調査の概要	2
結果	4
1 教科に関する調査の結果	4
(1) 概要	4
(2) 設問分類・区分別集計結果から	6
(3) 各設問の集計結果から	11
2 児童生徒質問紙調査の結果	15
(1) 概要	15
(2) 小学校6年生にみられる望ましい傾向	15
(3) 小学校6年生の課題と考えられる傾向	18
(4) 中学校3年生にみられる望ましい傾向	20
(5) 中学校3年生の課題と考えられる傾向	23
3 学校質問紙調査の結果	25
(1) 概要	25
(2) 小学校の取り組みについて	25
(3) 中学校の取り組みについて	27
4 児童生徒質問紙と教科に関する調査のクロス集計から	30
(1) 概要	
改善の方策	31
1 全体的な取り組みとして	31
2 学年・教科・区分・各設問ごとの具体的な改善の方策	35
3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のありかたについて	35
4 学校・家庭・地域の一層の連携.....	36
参考資料等	37

報告書の作成にあたって

本報告書の作成にあたっては、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成することに特に留意した。

報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会教育研究室「算数・数学学習指導研究委員会」及び「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

Ⅱ 調査の概要

1 調査の目的

- ア) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

2 実施主体 文部科学省

3 参加主体 市町村教育委員会

4 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

5 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

) 主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

) 主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

) 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

) 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

6 調査期日

平成20年4月22日(火)

7 4月22日に調査を実施した学校数・児童生徒数

(1)実施学校数

	小学校		実施率 (%)	中学校		実施率 (%)
	調査対象者 在籍学校数	実施学校数		調査対象者 在籍学校数	実施学校数	
全国(国公立)	21,971	21,849	99.4	10,973	10,573	96.3
全国(公立)	21,708	21,685	99.8	10,191	10,120	99.3
秋田県(公立)	263	263	100	132	132	100
仙北市教育委員会	7	7	100	5	5	100

(2)実施児童生徒数

小学校児童	児童数				
	国語A	国語B	算数A	算数B	質問紙
全国(国公立)	1,160,464	1,160,284	1,160,515	1,160,354	1,160,411
全国(公立)	1,147,582	1,147,406	1,147,633	1,147,475	1,147,533
秋田県(公立)	9,496	9,494	9,497	9,494	9,494
仙北市教育委員会	214	214	214	214	214

中学校生徒数	生徒数				
	国語A	国語B	数学A	数学B	質問紙
全国(国公立)	1,077,126	1,077,433	1,077,630	1,077,706	1,077,457
全国(公立)	1,029,961	1,030,260	1,030,425	1,030,521	1,030,265
秋田県(公立)	9,858	9,857	9,859	9,863	9,859
仙北市教育委員会	252	252	252	252	252

Ⅲ 結果

1 教科に関する調査の結果

(1)概要

本調査における全国及び秋田県の平均正答率と仙北市全体の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学のそれぞれ「A：主として知識」及び「B：主として活用」の区分で比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分の視点から比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

全国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、表1にあるように、仙北市の小学校6年生と中学校3年生の国語、算数・数学の学習状況は概ね満足できる状況である。

全国の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目の全てで仙北市が上回っている。

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校3年国語Bで仙北市は上回っている。

仙北市の状況の中では、小学校6年算数「A：主として知識」が最も良好な状況であり、小学校6年国語「A：主として知識」、中学校3年国語「A：主として知識」が良好な状況である。

【課題】

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校3年数学「A：主として活用」、小学校6年算数「B：主として活用」に課題がある。

仙北市の平均正答率を「A：主として知識」「B：主として活用」で比較した場合、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学の全てで「B：主として活用」の平均正答率が、「A：主として知識」の平均正答率を下回っている。

特に小学校6年算数の「B：主として活用」、中学校3年数学の「B：主として活用」に課題がある。

表 1 : 「全国及び秋田県の平均正答率との比較（教科・問題別）」

学年	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校 6 年生	国語A:主として知識	全国(公立)	65.4%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	74.4%	概ね満足できる状況
	国語B:主として活用	全国(公立)	50.5%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	62.9%	概ね満足できる状況
	算数A:主として知識	全国(公立)	72.2%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	80.7%	概ね満足できる状況
算数B:主として活用	全国(公立)	51.6%	十分満足できる状況	
	秋田県(公立)	58.9%	概ね満足できる状況	
中学校 3 年生	国語A:主として知識	全国(公立)	73.6%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	78.6%	概ね満足できる状況
	国語B:主として活用	全国(公立)	60.8%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	66.8%	概ね満足できる状況
	数学A:主として知識	全国(公立)	63.1%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	70.1%	概ね満足できる状況
数学B:主として活用	全国(公立)	49.2%	概ね満足できる状況	
	秋田県(公立)	54.7%	概ね満足できる状況	

表 1 の「仙北市の状況」は、国及び県の平均正答率と比較し、表 2 の表現にしたがって示した。

表 2 : 表 1 の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現（以下の表同じ）

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が + 6 % 以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が + 5 % 以下 ~ - 5 % 以上であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が - 6 % 以下であるもの	改善が必要な状況

表 2 は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第 3 条（別表 2）による

(2)設問分類・区分別集計結果から

本調査における全国及び秋田県の「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」別の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

表3 - (1) ~ 表3 - (8) にあるように、「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目において、国及び秋田県の平均正答率と仙北市を比較してみると、全ての項目で「概ね満足できる状況」もしくは「十分満足できる状況」である。

同様に全国の平均正答率と仙北市の比較からは以下のことが言える。

- ア)「小学校6年国語A」では、「学習指導要領の領域」の4区分、「評価の観点」の5区分、「問題形式」の2区分の計11区分のうち、「評価の観点」の分類の「言語についての知識・理解・技能」のみが「概ね満足できる状況」であり、他の10区分は全て「十分満足できる状況」である。
- イ)「小学校6年国語B」では、10区分全て「十分満足できる状況」である。
- ウ)「小学校6年算数A」では、8区分全て「十分満足できる状況」である。
- エ)「小学校6年算数B」では「学習指導要領の領域」の「量と測定」「図形」「数量関係」、「評価の観点」の「数量や図形についての表現・処理」及び「問題形式」の「選択式」の5区分が「十分満足できる状況」であり、他の4区分が「概ね満足できる状況」である。
- オ)「中学校3年国語B」では、「問題形式」の「選択式」が「概ね満足できる状況」で、他の8区分は全て「十分満足できる状況」である。

同様に秋田県の平均正答率と仙北市を比較してみると全て、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学の全ての区分で「概ね満足できる状況」である。

仙北市の状況の中で小学校6年については以下のことが言える。

- ア)「国語」については、「A：主として知識」の「学習指導要領の領域」では「話すこと・書くこと」「言語事項」が、「評価の観点」では「話す・聞く能力」が良好な状況である。「B：主として活用」では「学習指導要領の領域」の「話すこと・書くこと」、「評価の観点」の「話す・聞く能力」が良好な状況である。
- イ)「算数」については、「A：主として知識」の「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数量や図形についての表現・処理」が良好な状

況である。

仙北市の状況の中で中学校3年については以下のことが言える。

ア)「国語」の「A：主として知識」の「評価の観点」では、「国語への関心・意欲・態度」が特に良好な状況である。また、「学習指導要領の領域等」の「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」の「話す・聞く能力」が良好な状況である。

【課題】

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から比較した場合、次のような課題がある。

- ア) 小学校6年「算数」「A：主として知識」を「学習指導要領の領域」でみると、「図形」と「数量関係」に課題がある。
- イ) 中学校3年「国語」「A：主として知識」を「学習指導要領の領域」でみると、「書くこと」に、「評価の観点」でみると「書く能力」に課題がある。

仙北市の状況の中では以下のことが言える。

- ア) 小学校6年では、「算数」「B：主として活用」の「問題形式」では、「記述式」の問題に、「評価の観点」でみると「数学的な考え方」に、特に課題がある。
- イ) 中学校3年では、「数学」「B：主として活用」の「問題形式」でみると「記述式」の問題に、「学習指導要領の領域」でみると「数量関係」に、特に課題がある。

表3 - (1) : 「小学校6年国語A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 導 域 要 領	話すこと・聞くこと	2	83.9	76.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書くこと	4	60.8	53.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	2	60.7	44.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語事項	15	74.2	65.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	3	76.7	66.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	2	83.9	76.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書く能力	3	61.7	53.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	2	60.7	44.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	12	75.3	67.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	5	63.4	55.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	13	78.6	69.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (2) : 「小学校6年国語B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 導 域 要 領	話すこと・聞くこと	2	84.0	73.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書くこと	8	61.7	49.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	8	60.5	48.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語事項	0				
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	6	63.0	49.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	2	84.0	73.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書く能力	4	54.8	42.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	6	61.3	48.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	0				
問 形 式	選択式	2	58.0	47.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	5	63.1	51.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	5	64.8	51.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

表3 - (3) : 「小学校6算数A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 導 域 要 領	数と計算	10	84.0	76.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	量と測定	3	63.9	56.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	図形	3	83.6	72.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量関係	3	83.5	72.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評 価 の 観 点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	0				
	数量や図形についての表現・処理	7	89.9	82.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	12	75.2	66.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問 形 式	選択式	5	66.7	57.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	14	85.6	77.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (4) : 「小学校6算数B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	数と計算	3	69.2	65.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	量と測定	3	61.3	53.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	図形	4	68.0	61.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量関係	7	53.5	44.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評価 観 点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	9	49.2	42.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量や図形についての表現・処理	4	80.5	73.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	0				
問題 形式	選択式	5	68.5	62.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	3	81.4	74.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	5	35.7	27.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

表3 - (5) : 「中学校3国語A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	5	84.2	80.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	2	58.9	55.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	9	76.7	71.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語事項	18	80.1	75.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 観 点	国語への関心・意欲・態度	1	93.3	87.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	5	84.2	80.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	2	58.9	55.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	9	76.7	71.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	18	80.1	75.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	21	75.4	71.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	13	83.6	77.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (6) : 「中学校3年国語B」の設問分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指導領域	話すこと・聞くこと	0				
	書くこと	4	54.8	46.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	10	66.8	60.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語事項	1	73.6	60.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
の評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	55.7	46.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	0				
	書く能力	4	54.8	46.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	10	66.8	60.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	1	73.6	60.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問題形式	選択式	6	74.8	70.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	0				
	記述式	4	57.8	46.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

表3 - (7) : 「中学校3年数学A」の設問分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導領域	数と式	12	72.8	68.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	12	70.8	62.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量関係	12	66.8	58.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
の評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	0				
	数学的な表現・処理	17	69.7	62.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	19	70.5	63.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題形式	選択式	16	68.0	61.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	20	71.9	64.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (8) : 「中学校3年数学B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導要 領の領 域	数と式	12	72.8	68.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	12	70.8	62.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	12	66.8	58.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	0				
	数学的な表現・処理	17	69.7	62.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	19	70.5	63.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	16	68.0	61.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	20	71.9	64.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0				

(3)各設問の集計結果から

ここでは、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、特徴的なものについて示す。

①小学校6年「国語」A:主として知識について

ア)「設問番号3」「文章を読み返して、書き直した方がよい理由と方法を選択する」では「文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲する」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」及び「言語事項」、「評価の観点」では「書く能力」及び「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

②小学校6年「国語」B:主として活用について

ア)「設問番号3二」「『図書館だより』のグラフから分かったことを基にし、テーマや条件に即して自分の考えを書く」では「目的に応じて情報を読み取り、分かったことや自分の考えを明確に書く」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」及び「読むこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」及び「読む能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号4エオカ」「2つの意見を比べて読み、文章の組み立てとして適切な内容を選択する」では「意見文を書くために、二つの意見文を比べて読み、文章全体の組み立ての違いをとらえる」ことに特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」及び「読むこと」に、「評価の観点」では「書く能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

③小学校6年「算数」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号6(2)」**「面積が150cm²であるものを選ぶ」**では**「面積についての感覚を身に付けている」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では**「量と測定」**、「評価の観点」では**「数量や図形についての表現・処理」**、「問題形式」では**「選択式」**に分類・区分される設問である。

④小学校6年「算数」**「B:主として活用」**について

ア)「設問番号2(3)」**「米の生産額について『割合が減っているから、生産額は減っている』という考え方が正しいかどうかを判断し、そのわけを書く」**では**「他者の考えが正しいかどうかを割合の考えを用いて判断し、その理由を記述できる」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では**「数量関係」**、「評価の観点」では**「数学的な考え方」**、「問題形式」では**「記述式」**に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号5(2)」**「身長の変化を表す折れ線グラフの一部分と、身長の伸びを表す棒グラフの一部分を比べて、その違いを書く」**では**「グラフの特徴を基に2つのグラフが対応していないことをよみとり、違いを記述することができる」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では**「数量関係」**、「評価の観点」では**「数学的な考え方」**、「問題形式」では**「記述式」**に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号1(2)」**「どの2つの戸棚を選んで置いても、ドアを開け閉めすると、ドアが戸棚に当たってしまうわけを書く」**では**「情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することができる」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では**「数と計算」**、「評価の観点」では**「数学的な考え方」**、「問題形式」では**「記述式」**に分類・区分される設問である。

⑤中学校3年「国語」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号3-1」**「意見文の評価として適切なものを選択する」**では**「論理の展開に着目し、評価・批評する」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では**「書くこと」**、「評価の観点」では**「書く能力」**、「問題形式」では**「選択式」**に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号5-1」**「事象(茶碗の湯気の渦の様子)について書かれた一文を本文中から探して書く」**では**「論理の展開の仕方に即して内容を読み取る」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では**「読むこと」**、「評価の観点」では**「読む能力」**、「問題形式」では**「短答式」**に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号6-5」**「見やすく書かれている伝票の説明として適切なものを選択する」**では**「配列・配置に注意して書く」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では**「言語事項」**、「評価の観点」では**「言語についての知識・理解・技能」**、「問題形式」では**「選択式」**に分類・区分され

る設問である。

エ)「設問番号 6 六イ」「漢和辞典で調べた意味の中から、ふさわしいものを選択する(年頭)」では「辞書を活用して、漢字が表している意味を正しくとらえる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「言語事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

⑥中学校3年「国語」**「B:主として活用」**について

ア)「設問番号 1 三」「別の資料に書かれている新しい情報を選び出し、条件にしたがって書き換える」では「資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」及び「読むこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

⑦中学校3年「数学」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号 2 (5)」「『 $3a + 4b$ 』で表される事象を選ぶ」では「文字式の意味を具体的な事象と関連付けてよみとることができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数学的な表現・処理」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 1 2 (2)」「一次関数の表から式を求める」では「一次関数の表から、 x と y の関係を $y = ax + b$ の式で表すことができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な処理・表現」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

また、この設問は比較的無回答率が高い。

⑧中学校3年「数学」**「B:主として活用」**について

ア)「設問番号 1 (3)」「男性の場合と女性の場合で上腕骨の長さの差が等しいとき、身長差が大きくなる方を選び、その理由を説明する」では「事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 5 (2)」「高さの増大に伴って、気温が一定の割合で減少することから、高さ気温の関係を選ぶ」では「事象を理想化・単純化してとらえ、言葉で表現された事柄の数学的な意味を考えることができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問であ

る。

ウ)「設問番号5(3)」 「表やグラフのデータをもとに、富士山の6合目の気温を求める方法を説明する」では「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

また、この設問は約3分の1の生徒が無回答であり、極端に無回答率が高い。中学校3年国語・数学の A・B全ての設問を通じて最も無回答率が高い。

2 児童生徒質問紙調査の結果

(1)概要

本調査における児童生徒質問紙調査について、仙北市全体の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、いくつかの課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向がみられる。

特に「規範意識・礼儀・思いやり・他者理解」「基本的生活習慣・基本的学習習慣」「家庭での生活」「地域への愛着・地域での生活」「学習に対する意欲・学習の有用感」に望ましい傾向があるといえる。

(2)小学校6年生にみられる望ましい傾向

①仙北市の傾向

小学校6年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合）が、90%を超えた設問は、75の設問中12の設問であった。

「肯定的回答」の占める割合が90%を超えた設問を分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「学習に対する意欲・学習の有用感」「学校生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：29) 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

(設問：30) 学校で好きな授業はありますか

(設問：62) 算数の勉強は大切だと思いますか

(設問：67) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

イ)「規範意識・思いやり・向上心・社会貢献」に望ましい傾向がみられる。

(設問：5) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか

(設問：35) 友達との約束を守っていますか

(設問：39) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

(設問：40) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

ウ)「基本的生活習慣・基本的学習習慣」「家庭生活」に望ましい傾向が見られる。

(設問：1) 朝食を毎日食べていますか

(設問：26) 家で学校の宿題をしていますか

(設問：21) 家の人と普段(月～金曜日)夕食を一緒に食べていますか

エ)「地域での生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：37) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか

②全国との比較から

表4 は、児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のものを、その差が大きい順に示している(表の網がけの部分)。県との割合との差は参考のために示した。

これによると、仙北市の児童は全国と比較して全体として次のような望ましい傾向がある。

ア)「学習への意欲」等に望ましい傾向がみられる。

(設問: 45)「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか

(設問: 56)国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか

(設問: 49)テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか

イ)「基本的生活習慣・基本的学習習慣」に望ましい傾向がみられる。

(設問: 28)家で学校の授業の復習をしていますか

(設問: 10)普段(月~金曜日)何時ごろに寝ますか

ウ)「地域に対する興味・関心、愛着」に望ましい傾向がみられる。

(設問: 32)今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか

(設問: 33)今住んでいる地域の行事に参加していますか

エ)「思いやりの心」に望ましい傾向がみられる。

(設問: 43)体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか

表4 児童質問紙調査のうち全国と比較して肯定的な回答の占める割合が高い事項

設問番号	質問事項	項目	肯定的回答の割合(%)	否定的回答の割合(%)	仙北市の肯定的回答率との差(ポイント)
(28)	家で学校の授業の復習をしていますか	全国の割合	43.4	56.4	26.7
		県の割合	79.7	20.3	-9.6
(32)	今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか	全国の割合	48.2	51.7	18.7
		県の割合	57.8	42.2	9.1
(33)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	全国の割合	59.9	39.9	16.3
		県の割合	75.6	24.4	0.6
(45)	「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか	全国の割合	73.6	26.2	11.9
		県の割合	79.4	20.7	6.1
(56)	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	全国の割合	56.4	43.5	11.9
		県の割合	68.1	31.8	0.2
(49)	テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか	全国の割合	63.1	36.8	10.7
		県の割合	77.8	22.2	-4
(43)	体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか	全国の割合	41.3	58.6	10.1
		県の割合	41.3	58.7	10.1
(10)	普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか	全国の割合	41.4	55.0	10.0
		県の割合	50.9	48.1	0.5

「肯定的回答」とは、質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合。「否定的回答」とは、質問紙の選択肢のうち「あまりない」と「全くない」もしくは、「あまりしていない」と「全くしていない」あるいは、「どちらかといえば、当てはまらない」と「当てはまらない」等を合計した割合。(以下同じ)

「設問(10)」の「肯定的回答」は選択肢の「午後9時より前」と「午後9時以降、午後10時より前」を選択した割合を合計したもの。「否定的回答」は選択肢の「午後10時以降、午後11時より前」「午後11時以降、午前0時より前」「午前0時以降」を選択した割合を合計したもの。

(3)小学校6年生の課題と考えられる傾向

ここでは、児童質問紙調査のうち全国の結果と仙北市を比較して、課題と考えられる傾向について示す。

①学校の授業以外の学習時間について

表5 は学校の授業以外の学習時間を問うたものである。この中で、「全く学習しない児童の割合」は全国と比較して3.6ポイント少ない。「学習時間が1時間より少ない児童の割合」は全国と比較して19.1ポイント上回っており、「1時間以上学習する児童の割合」は全国と比較して15.4ポイント下回っている。仙北市の小学校6年生は全国と比較した場合、全体として、授業時間以外に1時間以上の学習をする児童の割合が少ないと言える。

表5 学校の授業時間以外の学習時間の全国との比較

設問 (16)	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか		
	A: 1時間以上学習する児童の割合	B: 学習時間が1時間より少ない児童の割合	C: 全く学習しない児童の割合
全国の割合	56.1	39.3	4.5
県の割合	56.9	41.56	1.6
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	-15.4	+19.1	-3.6

※表のAは選択肢の「1、3時間以上」「2、2時間以上3時間より少ない」「3、1時間以上2時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

※表のBは選択肢の「4、30分以上1時間より少ない」「5、30分より少ない」を選択した割合を合計したもの

②家庭での時間の過ごし方について

表6 は家庭でテレビゲームをする時間とテレビやビデオ・DVDを見る時間を問うたものである。この中で、「テレビ・ビデオ・DVDを2時間以上視聴している児童の割合」は全国と比較して4.5ポイント多い。同様に「テレビゲームを2時間以上する児童の割合」は全国と比較して6.0ポイント多い。

仙北市の児童は、全国と比較して、テレビ・ビデオ・DVDを視聴する時間やテレビゲームをする時間が2時間以上と回答した割合が高い。

表 6

設 問 (12)	普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりしますか		
	A: 2時間以上の児童の割合	B: 2時間より少ない児童の割合	C: 全く見たり聞いたりしない児童の割合
全国の割合	69.8	28.8	1.4
県の割合	70.1	28.9	1.0
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	4.5	-3.6	-0.9
設 問 (13)	普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲームをしますか		
	A: 2時間以上の児童の割合	B: 2時間より少ない児童の割合	C: 全く見たり聞いたりしない児童の割合
全国の割合	23.9	58.5	17.5
県の割合	23.4	60.9	15.7
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	6.0	-2.4	-3.5

※表のAは選択肢の「1、4時間以上」「2、3時間以上4時間より少ない」「3、2時間以上3時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

※表のBは選択肢の「4、1時間以上2時間より少ない」「5、1時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

表7 は家や図書館での読書の時間を問うたものである。この中で、「1時間以上読書をしている児童の割合」は全国と比較して6.5ポイント少ない。同様に「1時間より少ない時間読書している児童の割合」も全国と比較して2.1ポイント少ない。「読書を全くしない児童の割合」は全国と比較して8.6ポイント高い。

仙北市の児童は、全国と比較して家や図書館で読書する時間が少なく、「全くしない」と回答した児童の割合が高い。

表 7

設問 (18)	家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書 をしますか		
	A: 1時間以上の児童 の割合	B: 1時間より少ない児 童の割合	C: 全くしない児童の割合
全国の割合	16.8	42.7	20.4
県の割合	13.1	44.9	21.2
仙北市と全国 との回答率の 差(ポイント)	-6.5	-2.1	8.6

※表のAは選択肢の「1、2時間以上」「2、1時間以上2時間より少ない」「3、30時間以上1時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

※表のBは選択肢の「4、10分以上30分より少ない」「5、10分より少ない」を選択した割合を合計したもの

(4)中学校3年生にみられる望ましい傾向

①仙北市の傾向

中学校3年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合(質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合)が、90%を超えた設問は、75の設問中14の設問であった。

「肯定的回答」の占める割合が90%を超えた設問を分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「規範意識・礼儀・思いやり・他者理解」に望ましい傾向がみられる。

(設問: 34) 学校の規則を守っていますか

(設問: 35) 友達との約束を守っていますか

(設問: 38) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

(設問: 39) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

イ)「基本的生活習慣・基本的学習習慣」「家庭での生活」に望ましい傾向が見られる。

(設問: 1) 朝食を毎日食べていますか

(設問: 2) 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか

(設問: 4) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

(設問: 24) 家で食事をするときは、テレビをみないようにしていますか

(設問: 26) 家で学校の宿題をしていますか

ウ)「地域への愛着・地域での生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：37) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか

エ)「学習に対する意欲・学習の有用感」に望ましい傾向がみられる。

(設問：51) 国語の勉強は大切だと思いますか

オ)「その他に望ましい傾向がみられるもの」

自尊感情・達成感(設問：5)ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか

学校生活(設問：29) 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

向上心・社会貢献(設問：40) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

②全国との比較から

表8 は、生徒質問紙調査のうち、全国の肯定的回答の割合と仙北市の生徒の肯定的回答の割合を比較して仙北市の割合が+10ポイント以上のものをその差が大きい順に示している(表の網がけの部分)。県の割合との比較は参考のために示した。これを分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「学習に対する意欲・学習の有用感等」に望ましい傾向がみられる。

(設問：45)「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか

(設問：46)「総合的な学習の時間」の授業では、新しいことを発見できると思いますか

(設問：47)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

(設問：48) 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか

(設問：53) 読書は好きですか

(設問：67) 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

イ)「地域への愛着・地域での生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：33) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

(設問：32) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか

(設問：37) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか

ウ)「基本的な生活習慣・基本的な学習習慣」に望ましい傾向が見られる。

(設問：26) 家で学校の宿題をしていますか

(設問：28) 家で学校の授業の復習をしていますか

(設問：49) テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか

エ)「家庭生活」に望ましい傾向がみられる。

(設問：20) 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか

(設問：22) 家の人と学校での出来事について話をしていますか

表8 生徒質問紙調査のうち、全国と比較して肯定的な回答の占める割合が高い事項

設問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答率 との差(ポイント)
(28)	家で学校の授業の復習をしていますか	全国	39.6	60.1	+33.4
		秋田県	67.1	32.7	+5.9
(33)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	全国	37.0	62.8	+28.1
		秋田県	45.1	54.8	+20.0
(32)	今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか	全国	23.5	76.4	+21.7
		秋田県	31.9	68.1	+13.3
(49)	テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか	全国	52.9	46.7	+18.9
		秋田県	65.8	34.0	+6.0
(47)	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	全国	56.9	42.8	+16.5
		秋田県	68.9	31.0	+4.5
(20)	家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか	全国	40.6	59.3	+15.7
		秋田県	52.9	47.2	+3.4
(53)	読書は好きですか	全国	69.0	30.6	+15.2
		秋田県	78.1	21.7	+6.1
(46)	「総合的な学習の時間」の授業では、新しいことを発見できると思いますか	全国	48.2	51.4	+14.9
		秋田県	65.3	34.6	-2.2
(45)	「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか	全国	59.3	40.5	+12.6
		秋田県	70.5	29.4	+1.4
(67)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	全国	65.6	34.0	+11.0
		秋田県	71.3	28.6	+5.3
(48)	普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか	全国	74.5	25.3	+10.8
		秋田県	84.2	15.7	+1.1
(22)	家の人と学校での出来事について話をしていますか	全国	57.9	41.9	+10.4
		秋田県	62.7	37.3	+5.6
(26)	家で学校の宿題をしていますか	全国	81.4	18.5	+10.3
		秋田県	88.2	11.8	+3.5
(37)	近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか	全国	82.7	17.2	+10.1
		秋田県	84.7	15.3	+8.1

(5)中学校3年生の課題と考えられる傾向

ここでは、生徒質問紙調査のうち全国の結果と仙北市を比較して、課題と考えられる傾向について示す。

①学校の授業以外の学習時間について

表9 は学校の授業以外の学習時間を問うたものである。この中で、「全く学習しない生徒の割合」は全国と比較して6.1ポイント少ない。「学習時間が2時間より少ない生徒の割合」は全国と比較して30.9ポイント上回っているが、「2時間以上学習する生徒の割合」は全国と比較して18.2ポイント下回っている。仙北市の中学校3年生は全国と比較した場合、全体として、授業時間以外に2時間以上の学習をする生徒の割合が少ないと言える。

表9 学校の授業時間以外の学習時間の全国との比較

設問 (16)	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか		
	A: 2時間以上学習する生徒の割合	B: 学習時間が2時間より少ない生徒の割合	C: 全く学習しない生徒の割合
全国の割合	35.7	56.6	7.7
県の割合	24.5	72.4	3.1
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	-18.2	+30.9	-6.1

※表のAは選択肢の「1、3時間以上」「2、2時間以上3時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

※表のBは選択肢の「3、1時間以上2時間より少ない」「4、30分以上1時間より少ない」「5、30分以下」を選択した割合を合計したもの

②「国語B」及び「数学Bの問題の難易度と解答時間について

表10 は、生徒質問紙調査のうち、「国語B：主として活用」と「数学B：主として活用」で、「解答時間が余った生徒」と「ちょうどよかった」と回答した生徒の割合を加え、全国と比較したものである。(表の網がけの部分)。県との割合との差は参考のために示した。

その結果、仙北市内の中学校3年生は「解答時間が余った生徒」と「ちょうどよかった」と回答した生徒が、全国と比較してその割合が少ないと言える。

表 1 0

設問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答率 との差(ポイント)
(75)	解答時間は十分でしたか(数学B)	全国の割合	68.5	30.8	-16.6
		県の割合	56.8	43	-4.9
(73)	解答時間は十分でしたか(国語B)	全国の割合	68.0	31.2	-10.1
		県の割合	61.9	38	-4.0

3 学校質問紙調査の結果

ここでは、学校質問紙調査の結果のうち、教育指導に係る観点から仙北市全体の特に顕著な傾向がみられるものについてから示す。

この項で示す表は仙北市内の各小・中学校の回答結果（学校数）を、それぞれの質問事項における回答の割合（小・中学校それぞれの全体の学校数に対して、その回答をした学校の数の割合「%」）として示してある。

(1)概要

全国の状況と比較した場合、小・中学校を通じて、算数・数学で実生活における事象との関連を図った授業に積極的な取り組みが行われていると言える。国語では、小学校で様々な文章を読む習慣を付ける授業に、中学校ではコンピュータやインターネットを活用した授業に積極的な取り組みが行われていると言える。

また、小・中学校を通じて、平成19年度全国学力・学習状況調査の結果の活用に積極的に取り組んでいる学校の割合が高いと言える。

小学校では、算数の授業で習熟度に応じた少人数学習への取り組みや、発展的な学習の指導、国語の補足的な学習の指導に課題がある。

中学校では、国語の目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業に課題がある。また、学校図書館標準図書が達成されている学校の割合に課題がある。

(2)小学校の取り組みについて

①全国と比較して積極的に取り組んでいると言える事項

表11 は学校質問紙調査のうち、全国の肯定的回答の割合と仙北市の小学校の肯定的回答の割合を比較して仙北市の割合が+10ポイント以上のものをその差が大きい順に示している（表の網がけの部分）。県の割合との比較は参考のために示した。

これによると、仙北市の小学校は学力向上に対する取り組みの面で、算数の指導で実生活における事象との関連を図った授業や、算数の補足的な指導に積極的に取り組んでいると言える。国語の指導においては、様々な文章を読む習慣を付ける授業、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業に積極的に取り組んでいると言える。

また、児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導、放課後を活用した補足的な学習サポート、特別支援教育の体制の機能について全国と比べて肯定的回答の割合が高いと言える。

さらに、平成19年度全国学力・学習状況調査の結果については、調査問題の活用、自校の結果分析と指導計画の改善、具体的な教育指導の改善への活用について、積極的に取り組んでいると言える。

表 1 1 「全国と比較して仙北市の小学校が積極的に取り組んでいる事項」

質問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答と の差(ポイント)
(60)	算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	全国の割合	60.8	39.2	+39.2
		県の割合	75.3	24.7	+24.7
(42)	平成19年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか	全国の割合	48.6	51.2	+37.1
		県の割合	91.6	8.4	-5.9
(28)	児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしていますか	全国の割合	66.2	33.7	+19.5
		県の割合	74.9	25.1	+10.8
(55)	国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	全国の割合	82.9	17.0	+17.1
		県の割合	85.1	14.8	+14.9
(23)	放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していますか	全国の割合	41.9	58.0	+15.2
		県の割合	61.2	38.8	-4.1
(53)	国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	全国の割合	85.7	14.2	+14.3
		県の割合	90.1	9.9	+9.9
(39)	平成19年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させましたか	全国の割合	86.9	12.9	+13.1
		県の割合	94.7	5.3	+5.3
(54)	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	全国の割合	87.4	12.5	+12.6
		県の割合	95.0	4.9	+5.0
(40)	平成19年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか	全国の割合	88.1	11.7	+11.9
		県の割合	99.2	0.8	+0.8
(64)	学校全体として特別支援教育の校内支援体制が機能していますか	全国の割合	88.7	11.3	+11.3
		県の割合	93.1	6.8	+6.9
(58)	算数の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	90.0	9.9	+10.0
		県の割合	96.1	3.8	+3.9

②全国と比較して今後の検討課題と考えられる事項

表 1 2 は学校質問紙調査のうち、全国と仙北市の小学校を比較して、仙北市の小学校の肯定的回答の割合が全国よりも「-10」ポイントを超えて低かった事項について、その差が大きい順に示したものである（表の網がけの部分）。県の割合との比較は参考のために示した。

授業に関して、算数の授業では習熟度に応じた少人数による授業に取り組んでいる学校の割合と発展的な学習の指導を行っている学校の割合が低いと言える。国語では、補充的な学習の指導を行っている学校の割合が低いと言える。

また、学校教職員以外の人材を活用した授業に関しては地域の人材を外部講師として招聘した授業に取り組んでいる学校の割合が低いと言える。

表 1 2 「仙北市の小学校の肯定的回答の割合が全国よりも低かった事項」

質問番号	質問事項	項目	肯定的回答の割合(%)	否定的回答の割合(%)	仙北市の肯定的回答との差(ポイント)
(47)	算数の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	全国の割合	56.1	43.9	-27.5
		県の割合	71.2	28.8	-42.6
(48)	算数の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか	全国の割合	52.3	47.7	-23.7
		県の割合	68.1	31.9	-39.5
(65)	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	全国の割合	74.8	25.1	-17.7
		県の割合	73.8	26.3	-16.7
(59)	算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	57.8	42.1	-14.9
		県の割合	70.3	29.7	-27.4
(51)	国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	71.7	28.2	-14.5
		県の割合	83.3	16.7	-26.1

※設問番号(47)(48)の「肯定的回答の割合」は、選択肢の「年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った」から「指導を年間の授業のうち1/4未満で行った」までの割合を合計したものである。「否定的回答の割合」は選択肢の「習熟度別の少人数学習を行っていない」と回答した学校の割合を示す。

(3)中学校の取り組みについて

①全国と比較して積極的に取り組んでいると言える事項

表 1 3 は学校質問紙調査のうち、全国の肯定的回答の割合と仙北市の中学校の肯定的回答の割合を比較して、仙北市の割合が + 10 ポイント以上のものをその差が大きい順に 10 項目 (+ 10 以上ポイントの項目は 19 項目) 示している(表の網がけの部分)。県の割合との比較は参考のために示した。

これによると、仙北市の中学校の国語の指導では、コンピュータを使う学習活動や、様々な文章を読む習慣を付ける授業、普通教室でのインターネットを活用した授業に積極的に取り組んでいる学校の割合が高い。数学の指導では、実生活における事象との関連を図った授業に積極的に取り組んでいる学校の割合が高い。

また、平成 19 年度の全国学力・学習状況調査の結果を学校全体で活用すること、授業の中で活用すること、教育指導の改善に活用することに積極的に取り組んでいる学校の割合が高い。

特別支援教育について理解し、子どもの特性に応じた指導ができていると回答した学校の割合、生徒が熱意をもって勉強していると回答した学校の割合も高い。

表13 「全国と比較して仙北市の中学校が積極的に取り組んでいる事項」

質問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答と の差(ポイント)
(34)	国語の指導として、発表や自分の考えを整理する際に、生徒がコンピュータ等を使う学習活動を行っていますか	全国の割合	6.6	93.3	+33.4
		県の割合	8.4	91.7	+31.6
(59)	数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	全国の割合	49.8	50.1	+30.2
		県の割合	64.4	35.6	+15.6
(41)	平成19年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で活用しましたか	全国の割合	71.4	28.3	+28.6
		県の割合	89.4	10.6	+10.6
(42)	平成19年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか	全国の割合	39.2	60.5	+20.8
		県の割合	84.1	15.2	-24.1
(86)	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	全国の割合	81.2	18.8	+18.8
		県の割合	85.6	14.4	+14.4
(40)	平成19年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか	全国の割合	82.9	16.8	+17.1
		県の割合	98.5	1.5	+1.5
(55)	国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	全国の割合	83.1	16.8	+16.9
		県の割合	83.3	16.7	+16.7
(33)	国語の指導として、普通教室でのインターネットを活用した授業を行っていますか	全国の割合	3.4	96.5	+16.6
		県の割合	5.3	94.7	+14.7
(61)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、子どもの特性に応じた指導ができていますか	全国の割合	84.9	14.9	+15.1
		県の割合	89.4	10.6	+10.6
(11)	生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか	全国の割合	85.1	14.8	+14.9
		県の割合	94.7	5.3	+5.3

②全国と比較して今後の検討課題と考えられる事項

表14 は学校質問紙調査のうち、全国と仙北市の中学校を比較して、仙北市の中学校の肯定的回答の割合が全国よりも「-10」ポイントを超えて低かった事項について、その差が大きい順に示したものである（表の網がけの部分）。県の割合との比較は参考のために示した。

これによると、国語の指導について、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っている学校の割合と、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行っている学校の割合が低いと言える。

学校図書館については、学校図書館標準図書が達成されている学校の割合と、学校図書館を活用した授業を計画的に行っている学校の割合が低いと言える。

外部人材の活用については、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合と、ボランティア等による授業サポート（補助）を行った学校の割合が低いと言える。

研修に関しては、学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を

行っている学校の割合が低いと言える。

表 1 4 「仙北市の中学校の肯定的回答の割合が全国よりも低かった事項」

設問 番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市の肯 定的回答と の差(ポイント)
(69)	国語の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか	全国の割合	66.6	33.2	-46.6
		県の割合	65.2	34.9	-45.2
(85)	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	全国の割合	82.9	17.0	-42.9
		県の割合	65.9	34.1	-25.9
(20)	学校図書館図書標準が達成されていますか	全国の割合	42.3	56.3	-42.3
		県の割合	34.1	65.9	-34.1
(63)	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	全国の割合	57.9	41.9	-37.9
		県の割合	65.2	34.8	-45.2
(47)	数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	全国の割合	48.5	51.5	-28.5
		県の割合	70.5	29.5	-50.5
(75)	数学の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか	全国の割合	66.9	32.9	-26.9
		県の割合	66.7	33.3	-26.7
(22)	学校図書館を活用した授業を計画的に行っていますか	全国の割合	39.7	60.1	-19.7
		県の割合	34.1	65.9	-34.1
(64)	ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	全国の割合	18.1	81.7	-18.1
		県の割合	15.9	84.1	-15.9
(53)	国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	全国の割合	73.7	26.2	-13.7
		県の割合	80.3	19.7	-20.3

4 児童生徒質問紙と教科に関する調査のクロス集計から

ここでは、「児童生徒質問紙調査」の結果と「教科に関する調査」をクロス集計し、「児童生徒質問紙調査」の回答率と「教科に関する調査」の正答率との相関で仙北市全体の特
に顕著な傾向がみられるものについてから示す。

具体的には、「児童生徒質問紙調査」の「基本的生活習慣」「基本的学習習慣」「家庭での生活」に係る質問について、「1 している・当てはまる(強い肯定)」「2 どちらかといえば、している・どちらかといえば、当てはまる(弱い肯定)」「3 あまりしていない・あまり当てはまらない(弱い否定)」「4 全くしていない・当てはまらない(強い否定)」の4つの選択肢ごとに、「国語A」「国語B」「算数・数学A」「算数・数学B」の4区分の平均正答率を見て、4区分の全てで選択肢の「4」「3」「2」「1」の順に平均正答率が高くなる傾向にあるものを相関関係があると判断し、これを以下に示す。

(1)概要

仙北市の小学校6年生では、表15にあるように「設問53：読書は好きですか」で相関が見られたものの、他の項目では相関関係は見られなかった。

中学校3年生は、「基本的生活習慣」「基本的学習習慣」「家庭での生活」に係る項目では相関関係は見られなかった。

表15 「質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関が見られたもの

[仙北市：小学校6年]

質問 番号	質問事項	相 関 す る 教 科 等	「1」を選択した児童の平均正答率から「2」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)	「2」を選択した児童の平均正答率から「3」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)	「3」を選択した児童の平均正答率から「4」を選択した児童の平均正答率を引いた差(ポイント)
(53)	読書は好きですか	国語A	+2.6	+4.4	+15.4
		国語B	+6.3	+3.5	+12.8
		算数A	+0.9	+4.3	+9.1
		算数B	+6.6	+4.5	+8.1

IV 改善の方策

ここでは、仙北市全体の状況を踏まえて、一層の確かな学力の向上と課題の解決・授業改善のための方向性として考えられることを示す。

1 全体的な取り組みとして

(1)育てたい力の明確化と授業への位置づけ

本調査の教科に関する調査結果で、仙北市の課題として目につくのは第1に「自分の考えを理由・根拠を示して表現する」に係る設問である。具体的には、「...分かったことや自分の考えを明確に書く(小6国語B:設問3二)」、「...その理由を記述できる(小6算数B:設問2(3))」、「...理由を記述することができる(小6算数B:設問1(2))」、「...伝えたい事柄が明確に伝わるように書く(中3国語B:設問1三)」がそれに該当する。

第2には「概念的枠組みを用いて解釈する」ことに係る設問である。具体的には「...その結果を数学的な表現を用いて説明することができる(中3数学B:設問1(3))」、「...数学的な意味を考えることができる(中3数学B:設問5(2))」、「...問題解決の方法を数学的に説明することができる(中3数学B:設問5(3))」がそれに該当する。

第1にあげた「自分の考えを理由・根拠を示して表現する」については、PISA型読解力の「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」のプロセスとも密接に関連するものである。特に「解釈(テキストを根拠に推論して自分独自の解釈を述べる)」「熟考・評価(テキストと自分の知識や考え方や経験を結びつけ自分独自の意見を述べる)」と大きく関わっている。本調査では国語、算数・数学に関わって課題が明らかになったが、「自分の考えを理由・根拠を示して表現する」力を育てる活動は、国語、算数・数学以外の全ての教科等で取り組むべき活動である。中でも児童生徒の発言の場面(言語による表現)、調べたことや体験したことを課題に従って文章で表現する場面(文字による表現)、児童生徒の話合いの場面(児童生徒同士の理由・根拠を明確にしたアウトプットとインプット)は、この力を育てる重要な場面であり、全ての教科等の授業でみられる活動である。

第2にあげた「概念的枠組みを用いて解釈する」については、算数・数学の数量や図形に関する概念や方法についての意味理解を十分にさせる指導が直接的に関わっているが、教育課程全体で学校としてこれを授業に位置づけ育てていく必要ががる。

例えば、理科では自然事象について実験・観察を通して獲得した概念を用いて、新たな自然事象を読み解く学習活動や、社会科では調査や見学等を通して獲得した概念的枠組みを用いて、新たな社会的事象を解釈する等の学習活動が考えられる。この「概念的枠組みを用いて解釈する」学習活動は、特定の教科等でのみ展開されるものではなく、あらゆる教科等の授業に意図的に位置づけられて初めて、育成が図られるものである。

これら二つの視点は、学校教育法30条に規定された学力の重要な要素とも密接に関連している。規定では「基礎的な知識及び技能を習得させる...」「...活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力...をはぐくみ」「主体的に学習に取り組む態度を養う」の3点が示されている。いわゆる「習得」「活用」「意欲」である。「自分の考えを理由・根拠を示して表現する」ことと、「概念的枠組みを用いて解釈する」ことは、特に

「活用」に大きく関わる。各学校では、学校教育法の改正を受けて告示された新学習指導要領の各教科の改訂の要点及び具体的な内容を十分に理解して、授業改善にあたる必要がある。

以上「自分の考えを理由・根拠を示して表現する」こと、「概念的枠組みを用いて解釈する」ことを、新学習指導要領の目標・内容に基づいて、各学校の実態に合わせて授業の中に明確に位置づけながら育成することが必要である。

昨年度の本報告書の本稿では「(1)実生活と結びついた授業への取り組み」を改善の方向性の第1点目にあげている。それは昨年度の結果に、実生活に結びついた「知識」の習得と「活用」の能力の育成にいくつかの課題が見られたからである。

この点を今年度の学校質問紙調査の結果で見ると「小学校設問60：算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか(仙北市の肯定的回答の全国比+39.2ポイント)」「中学校設問59：数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか(仙北市の肯定的回答の全国比+30.2ポイント)」という結果になっている。このことから、各学校では自校の課題に対する授業改善に具体的な視点から取り組み、改善が図られたことがうかがえる。今年度の課題に対しても、授業レベルで育成したい力を明確にし、学校全体で全ての教科等で取り組むことで改善につながると考える。

(2)個に応じた指導の一層の充実

本調査の学校質問紙調査の結果で目につく仙北市の課題は、「個に応じた指導の一層の充実」である。具体的には「小学校設問47：算数の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか(仙北市の肯定的回答の全国比-27.5ポイント、割合は回答を示した学校数の割合、以下同じ)」「小学校設問48：算数の指導として習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか(仙北市の肯定的回答の全国比-23.7)」「小学校設問51：国語の指導として補充的な学習の指導を行いましたか(仙北市の肯定的回答の全国比-14.5)」「小学校設問59：算数の指導として発展的な学習の指導を行いましたか(仙北市の肯定的回答の全国比-14.9)」「中学校設問47：数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い習得できるようにしましたか(仙北市の肯定的回答の全国比-28.5)」が該当する。

算数・数学、国語において、特に習熟度の差が大きくなると予想される単元や学習内容については、年間指導計画の中にそれを位置付け、適切なスパンで評価し、必要に応じて習熟の差に応じた指導が必要である。

「小学校学習指導要領解説 総則編 (平成20年6月 文部科学省)」の「第1章 総説」「3 改訂の要点」「(1)学校教育法施行規則改正の要点」「イ」には、「...各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらの活用を図る学習活動を充実する観点から、国語、算数、理科等の授業時数を増加する...」(中学校 総則も同じ)と示されている。新学習指導要領の教育課程の枠組みの中で、授業時数の増加は「つまづきやすい内容の確実な習得を図るための繰り返し学習」「知識・技能を活用する学習(観察・

実験やレポート作成、論述など)」を充実するために行うものであることを踏まえ、新学習指導要領に基づいた各教科等の年間指導計画の見直しが必要である。

以上の観点から年間指導計画を改訂する際には、本調査の「設問分類・区分別」の集計結果や秋田県が行っている学習状況調査の結果及び自校で行っている評価問題の結果等を参考にすることはもちろんであるが、上述した「(1)」の「自分の考えを理由・根拠を示して表現する」「概念的枠組みを用いて解釈する」に大きく関わる学習内容や単元についても個に応じた指導の一層の充実が求められる。

(3) 仙北市内の各学校で取り組んでいる改善策の共有化

「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」では、現在仙北市内の各学校で取り組んでいる改善策について報告・検討し、仙北市全体で取り組める内容についての意見交換を行った。今後の仙北市の改善策に結びつくと考えられるものを以下に示す。

1 授業改善の視点から

(1) 実生活と結びつけた授業への取り組み

- ・生活の中で身に付ける感覚(例：葉書の面積)を意図的に授業に取り入れる工夫。
- ・国語力向上への対応として、生活体験文などのような実体験と言葉を結びつけて書く指導。
- ・テキストをきちんと読み、生活と結びつけて自分なりに考え説明させる場の工夫。

(2) 読解のスキルに係る指導

- ・情報の取り出しのストラテジー(戦略)に係る指導。
- ・「条件に合わせて問題を解く」場合に「条件」にアンダーライン引くなどの指導。
- ・「読み取る」教材を用いた読み取りのポイントの指導。
- ・調査問題を活用した読み取りのスキルの指導。問題の形式に慣れさせることも必要。特に、必要な情報の選択や自分の意見・理由を文章で記述して解答するような形式は繰り返し触れさせて答え方に慣れさせる指導が必要。
- ・教科書の教材だけでなく、関連のある文や作品を読み幅のある授業の構築が必要。

(3) やりきる授業

- ・1時間の学習展開を「考える」、「振り返る」まで完結させる授業。1時間の授業の終わりに一文でも「まとめ」を自分の言葉でノートに書かせる指導。
- ・めあて、自力解決、学び合い、まとめまでの過程を大切にした授業づくり。
- ・学び合いの時間、適用問題にあてる時間の十分な確保。
- ・自力解決に時間をかけすぎて、「まとめ」や「たしかめ」がおろそかにならないような指導過程。

(4) 児童・生徒の学習意欲に結びつく指導

- ・結果だけでなく、過程に目を向けた評価と指導。
- ・証明の結論まで至っていないが、答えを導き出そうとして補助線を引いたり、しるしや点を書いているノートやシート、テストの解答に対して、児童・生徒の思考の道筋や努力を丁寧に見取って励ます指導。

2 全校体制の取り組みの視点から

(1) 結果の分析と改善策の立案について

- ・分析結果と課題を全職員が共有することが必要。管理職や担当が分析し印刷物で配布しただけでは全職員の問題意識にならない。分析結果を全職員で吟味する研修が必要。
- ・改善策は、全職員が関わって立案しなければならない。調査対象学年の授業担当者の指導改善だけでは改善に結びつかない。調査は小6と中3の国語と算数・数学で行われているが、小学校であれば低・中学年からの全ての教科等での指導、中学校であれば小学校を含め中1～2年時からの全ての教科等での指導が問われていると考えるべき。

(2) 他の教科等との関連を意識した全校体制での指導

- ・社会のグラフや統計表など非連続テキストの読み取りのスキルを他教科でも生かす指導。
- ・学校の課題に応じて、算数・数学のグラフの作成・読み取りと国語の論述、国語の古典と社会科の歴史的分野の学習など、教科を超えて重点的に取り組む工夫。
- ・特別活動（学級活動）で指導している「話し合いのルール」「発表のスキル」等を教科の授業でも生かす全学年共通の指導。例えば、答えを見つけるだけでなく理由を言えるようにする指導、普段の授業で自分の考えの根拠を明確に言わせる指導、読んだことを自分の言葉で説明できるような指導。
- ・情報過多の状態から、必要な情報を読み取る力を育てるための、授業と授業以外の学習機会を活用した指導。
- ・新聞、観察文、パンフレットなど多様なテキストを読み解き、テキストにもとづき自分の解釈を発表させる場の設定に全ての教科で取り組むことが必要。

(3) ノート指導の充実

- ・ノートに思考の過程が残るような「自分のノート」づくりの指導に全校体制で取り組むことが必要。
- ・学習シートに作図・印刷して配布するのは効率的だが力はない。ものさし、コンパス、分度器を低学年から使わせる指導が必要。特に図と式については積み重ねが必要。
- ・用語的知識をシートに穴埋め式で記入させる学習シートは簡便だが「解釈」や「熟考・評価」の過程が省略されることが多い。自分の思考過程が残るようなノートづくりの指導が必要。

3 授業以外の学習機会の活用の視点から

- ・始業前、業間、昼休み、放課後などの「 タイム」の活用（主に基礎・基本の習得）
- ・様々な「 タイム」の目的、計画性・系統性、教科との関連を意識した運用。
- ・授業との関連を意識した家庭学習の充実・工夫。

2 学年・教科・区分・各設問ごとの具体的な改善の方策

本報告書の「結果」「1 教科に関する調査の結果」「(3)各設問の集計結果から」に示された仙北市の状況の中で、学年・教科・区分について各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるものについては、「平成20年度 全国学力・学習状況調査 解説資料(平成20年4月[国立教育政策研究所 教育課程研究センター])」に示されている各設問ごとの「3 学習指導に当たって」を、具体的な授業場面での改善の参考としたい。

(「解説資料」は「国立教育政策研究所」HP、トップページの「平成20年4月23日『平成20年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について』」を掲載しました。」に掲載。 <http://www.nier.go.jp/08tyousa/08kaisetu.htm>)

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

(1)地域の人材活用

本調査の学校質問紙調査の結果から、仙北市教育委員会は学校における地域人材等の活用について、一層の支援を行う必要がある。具体的には「小学校設問65：地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか(仙北市の肯定的回答の全国比 - 17.7ポイント)」「中学校設問63：地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか(仙北市の肯定的回答の全国比 - 37.9ポイント)」「中学校設問64：ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか(仙北市の肯定的回答の全国比 - 18.1ポイント)」が該当する。

仙北市教育委員会では平成20年度から「学校教育バックアップ事業」を開始し、市内の各小・中学校で教育支援活動をしている地域住民等に対して、「ボランティア保険」の費用を補助するなどの支援を開始した。年度途中の事業開始ではあったが、現在「バックアップチーム」への登録者は43名となっており、読み聞かせや図書整理、伝統工芸の学習、水泳指導などで学校をバックアップしている。平成21年度以降はこの事業を一層拡充し、授業場面での活用や、授業サポートの充実を図る必要がある。

(2)学校図書館の充実について

本調査の学校質問紙の結果から仙北市教育委員会は、学校図書館の充実に取り組む必要がある。具体的には「中学校設問20：学校図書館標準が達成されていますか(仙北市の肯定的回答の全国比 - 42.9)」がこれに該当する。昨年度の本稿でも指摘したとおり、「学校図書館図書標準が達成されていますか」の質問に対して、仙北市は達成している学校の割合が全国・秋田県と比較して低い。特に中学校は、昨年度同様達成している学校が無い。

平成20年3月に告示された新学習指導要領で重要視されている言語活動を充実させる上から、また、読書を好きと答えた児童・生徒は正答率が高い傾向があることから、学校図書館の蔵書の充実は大きな課題であり、改善の必要がある事項である。

表 1 6

※公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定めたもの

学級数(小)	小学校で整備すべき蔵書の標準	学級数(中)	中学校で整備すべき蔵書の標準
1	2,400	1 ~ 2	4, 800
2	3,000	3 ~ 6	4, 800 + 640 × (学級数 - 2)
3~6	3,000 + 520 × (学級数 - 2)	7 ~ 12	7, 360 + 560 × (学級数 - 6)
7~12	5,080 + 480 × (学級数 - 6)	13 ~ 18	10, 720 + 480 × (学級数 - 12)
13~18	7,960 + 400 × (学級数 - 12)	19 ~ 30	13, 600 + 320 × (学級数 - 18)
19~30	10,360 + 200 × (学級数 - 18)	31 ~	17, 440 + 160 × (学級数 - 30)
31~	12,760 + 120 × (学級数 - 30)		

例えば、小学校で18学級の場合……………10, 360冊

例えば、中学校で15学級の場合……………12, 160冊

4 学校・家庭・地域の一層の連携

確かな学力の向上のためには、「基本的生活習慣」や「基本的学習習慣」の基盤の上に「学びのサイクルの習慣化」が必要である。これは授業を核として、授業日の家庭学習や長期休業中の学習、学校の始業前や放課後の学習が結びつけられ、関連し合っって児童生徒の学びの機会が習慣化されていくことである。そのためには、学校・家庭・地域の一層の連携が必要である。

本調査の学校質問紙調査では、「中学校設問69：国語の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか（仙北市の肯定的回答の全国比 - 46.6）」、「中学校設問75：数学の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか（仙北市の肯定的回答の全国比 - 26.）」という結果出ている。「学びのサイクルの習慣化」のためには、学校から家庭への働きかけを含めて一層の連携の推進が必要である。

家庭では子どもの基本的生活習慣や学習習慣などに関心をもち、学校と協力して一層望ましい姿になるよう家庭教育を充実させることが望まれる。具体的には児童質問紙調査の「小学校設問12：普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（2時間以上視聴している児童の割合が、全国比 + 4.5ポイント）」、「設問13：普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしていますか（テレビゲームを2時間以上する児童の割合が全校比 + 6.0ポイント）」がこれに該当する。

家庭でのテレビやビデオ・DVDの視聴やテレビゲームをする時間について、家庭で児童と話し合いをもちながら、各家庭でルールを決めて視聴等の時間を適切なものにしていくことが重要である。その際、本調査の結果を参考にするとともに、学校と連携をとりながら進めていくことが必要である。

また、仙北市の子どもたちが地域に対する愛着が深く、地域生活において望ましい傾向がみられることは、地域住民の支えが大きく影響していると考えられる。この点からも、これまで以上に学校・家庭・地域の連携を一層深めることが重要であると考えられる。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日
教育委員会告示第19号

(目的)

第1条 この要項は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」(以下「本調査」という。)の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報(以下「結果」という。)の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1)教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2)本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3)本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4)本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5)本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料(別表1)について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1)「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2)「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係について

も併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。

- (3)「別表1」の「3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (4)「別表1」の「4」については、公表する。
- (5)「別表1」の「5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6)「別表1」の「6」～「8」は公表しない。

(改善策の立案)

第4条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会教育研究室「算数・数学学習指導研究委員会」及び「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1)主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2)主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3)改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4)その他

(結果の公表の方法)

第5条 第3条に示す公表の内容及び第4条に示す改善策は、仙北市教育研究室において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第6条 仙北市情報公開条例第7条6号を根拠として第3条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成19年12月20日から施行する

(別表1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第3条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「四分位層」...成績の上位から25%のきざみで4つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表2)「(別表1)の1及び2の公表に係る階層区分と表現」(第3条関係)

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+5%以下～-5%以上であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が-6%以下であるもの	改善が必要な状況

資料2 平成20年度 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会名簿

役員氏名	備 考
委員長 入 江 清一郎	教育研究室 国語学習指導研究委員会委員長（教育研究室総合教育アドバイザー）
副委員長 鈴 木 幸 一	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員会委員長（桧木内中学校長）

委員氏名	備 考
桑 野 千 尋	教育研究室 国語学習指導研究委員（角館小学校）
佐 藤 知栄美	教育研究室 国語学習指導研究委員（中川小学校）
千 葉 栄 子	教育研究室 国語学習指導研究委員（白岩小学校）
伊 藤 里 実	教育研究室 国語学習指導研究委員（生保内小学校）
六 郷 久美子	教育研究室 国語学習指導研究委員（神代小学校）
富 岡 知 美	教育研究室 国語学習指導研究委員（西明寺小学校）
鎌 田 真寿美	教育研究室 国語学習指導研究委員（桧木内小学校）
新 山 芳 宏	教育研究室 国語学習指導研究委員（角館中学校）
青 池 研 悟	教育研究室 国語学習指導研究委員（生保内中学校）
佐 藤 公 則	教育研究室 国語学習指導研究委員（神代中学校）
清 水 靖	教育研究室 国語学習指導研究委員（西明寺中学校）
佐 藤 有 紀	教育研究室 国語学習指導研究委員（桧木内中学校）
藤 田 寿	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（角館小学校）
板 垣 涉	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（中川小学校）
藤 島 宏 明	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（白岩小学校）
伊 藤 詳 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（生保内小学校）
佐 藤 良 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（神代小学校）
藤 峰 芳 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（西明寺小学校）
草 薨 裕 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（桧木内小学校）
木 村 光 紀	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（角館中学校）
藤 原 修 悦	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（生保内中学校）
小 松 朋 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（神代中学校）
赤 川 嗣 昭	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（西明寺中学校）
戸 澤 聖 子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員（桧木内中学校）
田 口 和 典	教育研究室長